

河川工作物アドバイザー会議の経過報告・今後の予定

1 平成 29 年度（2017 年度）河川工作物アドバイザー会議の開催予定

2 回の開催を予定している。

- (1) 第 1 回 AP 平成 29 年 8 月 31 日（木）～9 月 1 日（金） 斜里町にて開催予定
ルシャ川において道庁治山ダムの改良と河床路の実証実験について現地検討
翌日は、8 月 4 日の科学委員会を踏まえた第 41 回世界遺産委員会決議への対応や
第 2 次検討ダムなど座学議論
- (2) 第 2 回 AP の会議は、例年どおり平成 30 年 1 月末頃に札幌会場で開催予定

2 今年度の長期モニタリング取組状況について

長期モニタリング実施計画に基づき、以下の調査を実施予定である。

(1) 長期モニタリング

淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況に関するモニタリング調査では、7 月から 9 月まで遺産隣接地域を含む 37 河川に水温測定ロガーを設置し、夏季の水温を計測するとともに、6 河川の魚類生息調査を予定している。

なお、魚類生息調査は 37 河川を 5 年で 1 巡するローテーションで実施しており、2 巡目となる次年度以降は、環境 DNA を用いたモニタリング手法の導入について議論する予定。

(2) サケ類の遡上状況調査（隔年実施）

ルシャ川とテッパンベツ川についてカラフトマスの遡上数と産卵床等について 8 月末から 10 月にかけて実施予定。

3 第 41 回世界遺産委員会決議に係わる対応について

他の WG と歩調を揃えて対応する。

第 41 回世界遺産委員会決議に係わる決議については、課題であるルシャ地区の道庁ダムの改良に関する検討、河床路の実証実験とも保全状況報告で示したロードマップに沿って進めている。

新たな決議に対する保全状況報告については、必要に応じてその進捗状況を中間報告する予定。

なお、IUCN の諮問ミッション招聘についても、予定どおり 2018 年に検討する予定であり、その検討が早期にまとまれば、2018 年 12 月までの保全状況報告に記載は可能な状況である。

4 第 2 次検討ダムについて

予定どおり着実に進めている。（羅臼側オッカバケ川・モセカルベツ川）

改良すればサケ科魚類の生息環境等の改善が図られる可能性のあるものの、改良に伴う防災機能等への影響が大きい「現状維持」と評価した河川工作物（第 2 次検討ダム）については、先行河川として「オッカバケ川」の 2 基（林野庁契約済）と「モセカルベツ川」の 1 基（北海道）について、本年度より改良工事に着手する予定。

5 その他

特になし。